

令和 7 年度

郡市医師会小児救急医療担当理事協議会

と き 令和 7 年 7 月 24 日（木）15：00～

ところ 山口県医師会 6 階 会議室

[報告：常任理事 竹中 博昭]

本協議会は、郡市医師会小児救急医療担当理事、小児救急医療従事者、山口県小児科医会、県行政担当者、山口県医師会役員が一堂に会し、小児救急医療に関し情報交換、意見交換を行うことを目的とし、年 1 回開催している。

協議事項

1 令和 6 年度小児救急関係事業報告について
(山口県医師会)

小児救急医療啓発事業と小児救急医療地域医師研修事業は県医師会が県からの委託事業として取りまとめを行っており、郡市医師会で研修会等を開催していただき、実施した郡市医師会に対し助成金として開催費用を支出している。小児救急医療啓発事業は乳幼児を持つ保護者を対象として講

習を行い、保護者が小児の病気に対する理解を深めることにより適切な受療行動を促し、医療機関の負担軽減及び真に急を要する患者への医療の充実を図ることを目的としている。令和 6 年度は、8 郡市医師会（柳井、大島郡、徳山、山口市、吉南、防府、宇部市、長門市）で 9 回開催され、約 63 万円の助成を行った（表 1）。小児救急医療地域医師研修事業は小児初期医療体制の確保を図るため、小児科を専門としない医師が小児のプライマリケアを行えるよう実施するもので、8 郡市医師会（柳井、大島郡、徳山、山口市、吉南、下関市、長門市、美祢市・美祢郡）及び県医師会により 10 回開催され、郡市医師会に約 109 万円の助成を行った（表 2）

表 1 令和 6 年度小児救急医療啓発事業研修会実施一覧

No.	開催医師会	開催年月日	開催場所	研修会・講習会名称	講師名	講師数	受講者数
1	柳 井	令和6年 7月18日(木) 13:30-15:00	柳井市保健センター	第13回MaMa塾 こどもと元気に過ごそう ～こんな症状の時！やっいていいこと・悪いこと～	キャブデンキッズクリニック 近藤 穂積	1	28
		令和6年 11月7日(木) 13:30-15:00	みどりが丘図書館	第14回MaMa塾 いざ！という時に備えて ～こどもの救急対応について～	キャブデンキッズクリニック 近藤 穂積	1	32
2	大島郡	令和6年 11月12日(火) 14:00-16:00	しまとびあスカイセンター	小児救急講習会 アメリカ心臓協会認定コース「ファミリーアンドフレンズ CPR」	光市立光綜合病院 院長 竹中 智昭	1	12
3	徳 山	令和6年 9月19日(木) 13:30-14:30	大河内幼稚園	すくすく健康広場	(医)成心会 ふじわら医院 院長 藤原 敬且	1	12
4	山口市	令和7年 2月14日(金) 19:00-21:00	かめ福オンラインプレイス (オンライン開催)	小児救急医療啓発事業「菜香亭セミナー」(オンライン) 子どもたちの“からだ”と“こころ”を守る	医療法人社団 たはらクリニック 院長 田原 卓浩	2	16
					綜合病院山口赤十字病院 小児科 門屋 亮		
5	吉 南	令和7年 2月12日(水) 13:30-15:30	小郡地域交流センター	小児救急啓発講習会	ハートこどもクリニック新山口 向江 徳太郎	1	10
6	防 府	令和7年 2月20日(木) 14:00-15:30	防府市保健センター	小児科医による講演会 「子どもがわかりやすい病気 ～家庭でできる対処法 ～」	防府医師会小児科医会 会長 蔵重 秀樹	1	15
7	宇部市	令和7年 2月16日(日) 13:30-15:00	宇部市多世代ふれあい センター ふれあい ホール	宇部市乳幼児保健協議会講演会	きばた小児科 院長 木畑 鉄弘	1	60
8	長門市	令和6年 11月12日(火) 13:30-14:30	長門市地域医療連携 支援センター 2階研 修室	令和6年度 育児講演会 「感染症・ワクチンの話題と救急時のツール」	長門綜合病院 小児科 青木 宜治	1	22

表 2 令和 6 年度山口県小児救急医療地域医師研修事業研修会実施一覧

No	郡市医師会	開催年月日	場所	研修会名	講師名	参加者数
1	柳井	令和6年6月28日(金) 19:00-20:00	柳井クルーズホテル	柳井医師会学術講演会 「山口県における小児炎症腸疾患診療の現状」	山口大学大学院医学系研究科 東 良紘	19
2	大島郡	令和7年1月20日(月) 19:00-20:00	大島文化センター	小児救急研修会 「外来診療で注意が必要な小児救急疾患とその対応について」	周東総合病院 総合診療科 藤岡 淳	4
3	徳山	令和6年9月26日(水) 19:00-20:30	Web開催	周南地区小児救急医療地域医師研修会 「尿検査と小児腎臓病」	JCHO徳山中央病院 小児科部長 水谷 誠	31
		令和7年1月16日(木) 19:00-20:30	徳山医師会病院 研修室	周南地区小児救急医療地域医師研修会 「若手の小児科医に届けたい小児救急マインド」	兵庫県立こども病院 救急科 医長 竹井 寛和	79
4	山口市	令和7年2月20日(木) 19:00-20:30	山口市医師会館	小児救急地域医師研修事業講演会 「子ども虐待医学の基本的な姿勢と考え方」	(医)聖ルチア会聖ルチア病院 神岡 淳司	19
5	吉南	令和7年1月24日(金) 19:00-21:00	吉南医師会館	小児救急地域医師研修会 「被災地の経験から学ぶ“災害時の地域総合救急医療”」	たはらクリニック 理事長・院長 田原 卓浩	11
6	下関市	令和7年2月1日(土) 18:00-19:10	下関グランドホテル 及びWeb (ハイブリッド開催)	令和6年度小児救急医療研修会 「イマドキの小児救急～＃8000から救命救急まで～」	総合病院山口赤十字病院 副院長・第一小児科部長 門屋 亮 先生	95
7	長門市	令和7年3月11日(火) 19:00-20:00	長門市医師会館	小児救急医療地域医師研修会 「熱性けいれん診療ガイドライン2023とインフルエンザの話題」	長門総合病院 小児科医 青木 宜治	11
8	美祿市・美祿郡	令和6年10月31日(木) 19:00-20:30	美祿市医師会会議室	令和6年度小児救急医療地域医師研修会	萩市民病院 小児科 井上 裕文	10
9	県医師会	令和6年6月2日(日) 14:15-15:15	山口県医師会館 及びWeb (ハイブリッド開催)	予防接種種別研修会 「HPVワクチンの副反応の現状や対応」	山口大学大学院医学系研究科整形外科学 准教授 鈴木 秀典	97

2 令和 7 年度小児救急関係事業について
(山口県医療政策課)

小児救急医療地域医師研修事業及び小児救急医療啓発事業を昨年と同様に継続する。また、複数の医療圏を対象に 24 時間 365 日体制で小児科診療を行う病院に対し運営費を補助する小児救急

医療拠点病院運営事業も継続する。対象病院は済生会下関総合病院、総合病院山口赤十字病院、徳山中央病院、岩国医療センターである。小児救急医療体制が整備されていない医療圏において、休日夜間の一部時間帯において小児救急患者を受け入れる体制を整備するため小児救急医療確保対策

出席者

郡市担当理事

大島郡	川口 寛	防府	藤原 元紀
熊毛郡	本田 圭子	下松	井上 保
吉南	岡崎 嘉一	岩国市	岩崎 淳
美祿郡	竹尾 善文	山陽小野田	砂川 新平
下関市	岩井 崇	光市	松島 寛
宇部市	松岡 尚	柳井	志熊 徹也
山口市	吉兼 隆大	長門市	綿貫 浩一
萩市	岩谷 一	美祿市	横山 幸代
徳山	大城 研二		

山口県小児科医会

会 長	田原 卓浩
理 事	藤原 元紀

県医師会

会 長	加藤 智栄
副 会 長	沖中 芳彦
常任理事	竹中 博昭
理 事	中村 丘

山口・防府地域夜間こども急病センター

門屋 亮

岩国市医療センター医師会病院

事務部長 津川 智一

県健康福祉部医療政策課医療対策班

主 査 池田 淳

主 任 杉山 宏子

株式会社法研

事業も継続する。対象病院は周東総合病院、長門総合病院である。重篤な小児患者に対し、より高い水準の小児救急医療を提供できるよう地域小児救命救急センター整備事業を継続する。対象は山口大学医学部附属病院である。

3 山口県小児救急医療電話相談事業（#8000）について（山口県医療政策課）

小児患者の保護者からの電話相談に相談員（看護師及び小児科医）が対応することで保護者の不安解消や適切な受診促進に寄与するための電話相談事業を継続する。山口県が業者に委託し電話相談を受ける看護師、医師を確保し、毎日19時から翌朝8時までの間は保護者に#8000に電話していただき看護師や医師にまず電話で相談した上で、119番で救急車を呼ぶ、近くの小児救急外来を受診する、翌日かかりつけ小児科を受診するなどの指示を受ける制度である。

令和6年度の相談件数は10,347件（前年度11,652件）、1日平均28.3件（前年度31.8件）であった。時間帯別相談件数は19時台、20時台、21時台、22時台の順に多くこれらの4時間で52.3%（前年度53.8%）の相談件数があった。医療圏別相談件数（絶対数）は山口・防府（3,284件）、周南（2,087件）、下関（1,828件）、宇部・山陽小野田（1,621件）、岩国（818件）、柳井（418件）、萩（187件）、長門（86件）の順であった。これを年少人口（0～14歳）千人当たりの相談件数に換算すると山口・防府（91.1件）、周南（78.5件）、下関（73.1件）、宇部・山陽小野田（64.4件）、岩国（59.3件）、柳井（70.8件）、萩（55.0件）、長門（34.8件）の順で、地域差が認められた。相談対象者は1歳未満が23.3%（前年度20.6%）、3歳未満が53.5%（前年度49.2%）で、3歳未満が約半数を占めた。電話相談の対応方法は119番指示0.9%（前年度4.5%）、すぐに救急外来を受診指示29.9%（前年度32.6%）であった。相談内容は「病気・症状」が39.8%（前年度69.3%）、「事故・ケガ」が6.7%（前年度16.6%）、であった。また応答率は主回線79.0%、副回線60.0%であった。

（質疑応答）

山口・防府地域夜間こども急病センター 門屋先生 #8000は症状に対する対応をしていただいて、場所や医療機関に対する対応は現場がすると認識しているが、年度当初、症状を聞いたにもかかわらず、地元の子ども救急に聞いてくださいという返し方になってくることが多いという話が事務や医師から出てきたので、小児科医会を通じて県にお話ししたところ速やかに改善した。

山口県小児科医会 田原会長 日本小児科医会が厚労省の委託を受けて毎年全国の調査の分析をしている。傾向としては3歳未満の相談件数が多いこと、3か月未満の発熱患者の対応に関しては119番・すぐに受診の比率がかなり高いと報告されている。119番・すぐに受診の指示率を委託会社（7社）ごとに分析すると、会社ごとに傾向がある。法研さんも山口県以外でも対応されているので、全国のデータ入力をして、より#8000の事業を効率よく展開していただきたい。

日本小児科医会での昨年度の集計のなかで気づいた点をいくつか挙げる。一つは子ども一人家庭の方からの相談は非常に不安を強く反映した相談が多いことである。子ども一人家庭が一つのポイントだろうと思うので、相談時にお子さんの人数を確認し、その家庭の子どもの人数別の相談時間や指示内容などに有意差がないか、パイロットスタディでも結構なので検討していただければありがたい。また、保護者の方の不安が大きくなるのは喘息、長引く咳など呼吸器疾患の相談で、説明しても不安感を払拭するのに時間がかかる傾向がある。通話中の保護者の満足度をどう改善するか、どう維持するかも検討していただきたい。

相談時間は山口県では19時から翌朝8時までであるが、都道府県によっては日曜・祝日のデイトタイムも#8000を稼働しているところがある。日曜・祝日のデイトタイムの#8000の事業もニーズが高いことを隅に記憶に入れておいてもらえたらと思う。

4 岩国市 来院型小児科オンライン診療について

岩国市医師会病院の医療圏での位置付けは初期の一次小児救急であるが、小児科医の確保が困

難なため、高次救急機関である岩国医療センターに救急小児患者が集中してしまい、そのうち約80%が軽症であるという現状がある。このため、今年度4月から毎週木曜日と日曜日の19時から21時半まで岩国市医師会病院において、来院型のオンライン診療を開始した。オンライン診療のモデルには自宅型と来院型の2つがあり、来院型で行っている。これは患者さんが病院内にいて、看護師の補助のもとで遠隔地の医師が診療を行うモデルで、いわゆるウィズナースの形である。患児の保護者に機器操作の負担がなく、安心感も高く、より対面診療に近い診療体験を提供できる点が特徴である。小児科領域におけるオンライン診療可否の判断については日本医学会連合の「オンライン診療の初診に関する提言」を元に行い、信頼性と安全性を担保している。

オンライン診療の流れは、初めに保護者が病院に電話し、看護師対応で症状など基本情報を取得する。看護師はその情報をもとに当直医師に確認を取りオンライン診療が適していると判断された場合に限りオンライン診療を受け付ける。この電話相談時が1つ目のトリアージのタイミングとなる。次いで患者さんに来院していただき、病院内で、ご本人のスマートフォンや病院のタブレットで問診を入力していただく。この情報は遠隔地にいる医師がリアルタイムで確認することができ、もう一度その患者さんがオンライン診療に適しているかどうかをオンライン診療担当医が判断する。この問診完了時点が2つ目のトリアージとなる。続いて看護師が付き添い診察室へ案内、モニター越しに遠隔医師とオンライン接続を行う。厚生労働省によるオンライン診療の適切な実施に関する指針に基づいて、かかりつけ医ではない医師が初診からオンライン診療を実施する場合は診療前相談が必要となる。そのため、医師が直接保護者と患者に対して診療前相談を行い、オンライン診療を行うかを最終的に判断するとともに、診療後に通常の現地での対面診療が必要となる場合もあることも丁寧に説明する。この診療前の相談が3つ目のトリアージとなる。3つ目のトリアージの後に、オンライン診療を開始する。看護師の操作による咽頭カメラ画像の転送による視

診、看護師が患者胸部に聴診器を当て遠隔聴診器による聴診、オンライン医師の指示による抗原検査や血液検査などを行い診療が行われている。

(質疑応答)

加藤会長 産婦人科・小児科オンライン相談事業を令和5年から県で行われているが、どのように行っているのか。対応は看護師が行うのか。

県医療政策課 医療に関する質問や不安を解消するために行っている事業で、診療ではなく相談である。オンライン相談については、産婦人科の医師、小児科の医師、個別にいくと助産師という形になる。基本的には医師の対応になる。

加藤会長 #8000の相談事業とオンライン相談をどのように棲み分けしているのか。

県医療政策課 #8000はあくまでも救急にかかるかどうかを相談するものである。オンライン相談は緊急度がない案件につきメールで質問していただき24時間以内に返信している。切迫度の違いで使い分けしていただいている。

山口県小児科医会 藤原理事 防府医師会は内科で時間外のオンライン診療を始めているが、会議で一番問題となったのは薬剤師の確保困難であるが、岩国ではいかがか。

岩国市医師会病院 津川事務部長 365日の救急診療を医師会病院で行っており、薬局に診療時間の間は薬剤師を既存で確保できている。同じ時間帯のリモート診療なので、今のところ問題はない。

山口・防府地域夜間こども急病センター 門屋先生 国立病院機構岩国医療センター救急外来への負担を減らす効果は出ているか。

岩国市医師会病院 津川事務部長 われわれが行っているオンライン診療は4歳以上としているので、1～3歳に関しては大きな効果はない。4歳以上に関しても事業が始まったばかりで、多い日で受診は1日3人程度で、今後市民へ周知していく必要がある。

山口・防府地域夜間こども急病センター 門屋先生 市内であれば比較的医療資源にたどり着ける可能性が高いと思うと、山口では美祢地域や阿武地域などの対応にどうしていくのか苦慮するので、今後の展開としては岩国でも山間部でかなり役に立つ事業になると思っているがいかがか。

岩国市医師会病院 津川事務部長 この事業自体が岩国市地域医療課と一緒に話し合って2年間準備してきたが、今後へき地医療に対してもこのシステムを工夫して使っていけるのではないかとこの協議は始まっている。

5 その他

山口市医師会 吉兼先生 この冬山口市内において、新型コロナ・インフルエンザの流行等で休日当番医の駐車場から車が溢れて道路に車列を作って地域の住民から苦情が来たということがあった。内科の1施設と小児科の1施設に対して、警察官が医院の中まで入ってきて、診察待ちの車両を何とかするように言われるという事案があった。山口市医師会からは当該時期の当番医付近の交通整理を警察に依頼したが、それはできないということだった。これをふまえて小児科医会、内科医会で山口市に相談して、感染症の流行時期に当番医をする医療機関に対し、交通整理員の経費

補助をするという話が進んでいる。先行してこのようなことを行っている自治体を都市医師会で把握しているところがあれば教えていただきたい。

竹中 山口市は休日診療所に出務ではなくて各先生方の医院で行って、こういう問題が出たということか。

山口市医師会 吉兼先生 内科の方は一次救急の日中は各医療機関で行っている。小児科も冬は単独の当番医があたっている。その過程において、問題が発生した。

宇部市医師会 松岡先生 年末に出務する形で休日夜間診療所に出たが、駐車場が狭いので交通整理はすぐ来てもらったが、近くの小学校を開けてもらってそこの校庭を利用させてもらった。もともと市が管理しているのでスムーズに対応できたが、問題があったのは薬局の方で、翌日の朝5時まで処方作業をしたことがあり、対応策が必要である。

表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。
アナログ写真、デジタル写真を問いません。
ぜひ下記までご連絡ください。
ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。



〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会総務課内 会報編集係
E-mail: kaihou@yamaguchi.med.or.jp

山口銀行はスマホ1つで

いつでも、どこでも、カンタンに

口座開設も

残高照会も

お振込も

お店に行かなくても大丈夫。便利に使えるアプリです。

この世界で。
この街で。
このじぶん。

YMfg

山口銀行

お問合せはヘルプデスクへ

0120-307-969

■受付時間(平日・土日祝)
7:00~23:00



ダウンロードは
コチラから

